

それでも、パンドラの箱にかかった錆びついた鍵を開ける人であり続けたい

ガーナはそろそろ雨期に近づいてきたかなという感じの空が時折見られるようになりました。年末、ハマターンの時期、仲良くしてもらっていた元隊員さんがガーナにプライベートでやってきました。ガーナ人に対し、本気で腹をたて怒り泣く経験をした隊員さんと久しぶりにガーナの熱いトークを交わしました。職種が教育関係とあってガーナローカルネタはもちろんのこと、教育話もしました。「わたしたち（青年海外協力隊の教育関連）がやっている活動は、ひょっとしたら教えている子どもたちに残酷なことをしているのではないか。」からこの話は始まりました。「村の子どもたちは、将来都会に出て仕事をする子どもは多くはなく、そうした子どもたちにパソコンやその他教えることによって、学んでもそれが生かせない環境にいる子どもたちに、その環境下に置かれていることをただ残酷につたえているだけではないか。」と彼女は続けました。とし姐と私を慕ってくれ、笑う時はガハハッと笑う彼女の眼はどこか憂いでいました。そんな歩むことをやめてしまうようなことを言ってしまったら、、、そんな想いで「直ぐに結果が出ないのが教育だよね。」と返した後、以前体験した話をしました。今から6～7年前、様々な理由から村に行くのがつらく感じていた頃、当時まだ舗装道路が開通してなく赤土の埃舞うアフラオロードで途中通過するアカチから乗ってきた男性に「こんにちは」と声をかけられました。私の顔を見てアジア人蔑視の言葉を言うでもなく日本語の挨拶。うれしくなり、どうして日本語の挨拶を知っているのか聞きました。すると、アカチの当時の隊員さんから日本語の挨拶を教えたもらったというのです。この隊員さんの後の後が、私をとし姐と慕ってくれている彼女なのです。教育は教える側も学ぶ側もあきらめてしまっただけではいけないものだと思われ、背中を押してくれる事例にも感じます。

Education is most powerful weapon which you can use to change the world.

教育とは世界を変えるために用いることができるもっとも強力な武器である。

ネルソンマンデラさんの言葉です。大好きな言葉でもあります。

私は、子どもの未知なる可能性や将来の選択肢はパンドラの箱にたくさん詰まっていると考えます。しかし、長いこと開けられなかったパンドラの箱には錆びついた鍵がかかっています。その錆びついた鍵を開ける人であり続けたい。教育という手段を使って開け続けたい。村の子どもたちを井の中の蛙にたとえるなら、誰よりもキャッサバやメイズと呼ばれるとうもろこしの上手な植え方を知っていてももっと外へ出ると未知なる世界が広がっていることを教えたい。私のように外国人を肌の色やアジア人蔑視で呼ぶのではなくあいさつがあることを伝えたい。錆びついた鍵を開けるのは私。パンドラの箱のふたを開けるのは子どもたち。ふたを開けると未知なる世界が広がっていることを体験してほしいと願い続け、錆びついた ka 鍵を開け続けます。

2019年2月16日 國分敏子

ガーナ挨拶 No23